

事例 7 学級活動（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
「イ よりよい人間関係の形成」の事例

- 学年 第6学年
 ○主要内容 SNSの望ましい使い方への指導
 ○事例のポイント
 ①児童の実態に即した授業展開にするために事前アンケートを活用する。
 ②豊富な解決策を共有し、児童自ら実践目標を意思決定できるようにする。
 ③多様な考えを共有するため、学習場面に応じて意図的指名や小集団による話し合いの場を設定する。
 ④児童が自分事として捉え思考を深めるために、アンケート結果や動画などの資料を効果的に活用する。

ICTを活用した主な学習場面

実態把握のためのアンケート結果提示の場面
 映像資料をもとにした原因追求の場面
 解決方法の共有場面

ICT活用の利点

- ①資料をモニターで表示し、共有することで実態や現状を共有することができる。
 ②共有ソフト「ロイロノート」を活用することで、他者の考えを共有し、互いに助言し合うことができる。

1 題材 「SNSの上手な使い方」

2 児童の実態と題材設定の理由

本学級の児童は、目標に向かって学級全員で頑張ろうとする姿や、仲間のよさに目を向け、認め合おう姿がよく見られる。児童は、積極的に発表することができ、互いの意見を聞き合おうという姿勢が育ってきている。児童同士のコミュニケーションが円滑になってきている一方で、SNSの利用がトラブルに繋がるがあった。この状況を受け、実態把握の為にアンケート調査を行ったところ、学級のほとんどの児童にとって、SNSでの繋がりが身近になっていることが分かった。

本題材は、年間計画に位置付けてある題材である。学級活動（2）「イ よりよい人間関係の形成」に関わり、SNSとの付き合い方を振り返り、SNSを使用する際の問題点について考えることを通して、日常生活における言葉の伝え方を見直していくことをねらいとしている。日常のコミュニケーションと同様に、「人の嫌がる言葉を使わないこと」や「相手の気持ちを考えて伝えること」など、児童一人一人が自分事として捉えられるようにしていきたい。その際、SNS上に載せた文字や写真は二度と消せないことや、文字だけだと思いが伝わりにくいこと、いじめなどにも繋がりがねないことも理解できるようにしたい。さらに児童一人一人が、SNSとどのように向き合っていくかを真剣に考え、前向きな気持ちでSNSと付き合いしていく態度を育成していきたい。さらに、授業の様子を積極的に保護者に伝え、家庭での使用の約束等を考えるきっかけとしたい。

3 第5学年及び第6学年の評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自主的に課題解決に取り組み、他者と信頼し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

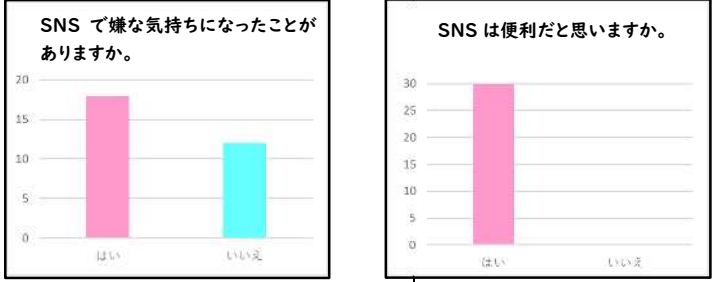
4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
・題材を知る。 ・アンケートを回答する。	・問題意識を高められるよう、事前に予告しておく。 ・アンケート（ＩＣＴ機器を活用）を実施し、実態を把握する。	◎アンケートを通して、これまでのＳＮＳとの付き合い方を振り返り、よりよい人間関係を築こうとしている。 【態】(アンケート)

5 本時のねらい

ＳＮＳ等を中心に日常の言葉の使い方を振り返り、ＳＮＳを使用する際の問題点を理解するとともに、相手意識のある言葉の伝え方ができるようにするために、自分のめあてを立てて実践できるようにする。

6 展開

段階	児童の活動	指導上の留意点	資料	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
問題の把握(つかむ)	1 今までのＳＮＳとの付き合い方について振り返る。 ・ＳＮＳは身近で、小学生の自分達も活用している。 ・便利で、生活に欠かせないツールになっている。	・便利であるが様々なトラブルが発生していることも理解できるようにアンケート結果を表示する。	・ＩＣＴ機器（ロイロノート）を活用したアンケート集計表 ・黒板掲示用アンケート集計表	事例のポイント① アンケート集計結果については、大型モニターでも映すとともに、いつでも振り返られるよう黒板掲示用も作成しておく。
5分				
	ＳＮＳと上手に付き合う方法を考えることを通して、言葉の使い方や伝え方について考えよう			
原因の追求(さぐる)	2 アンケート結果や映像資料をもとに、ＳＮＳではなぜトラブルが起きてしまうのか原因について話し合う。 事例のポイント④ トラブルは、誰にでも起こり得る身近な問題であることを実感できるような映像資料を活用する。	・必要な部分を抜き出して動画を表示する。 ・グループで「どんなトラブルがあるか」「トラブルの原因」について話し合った内容を、ロイロノートで共有する。	策研究所)	ICT活用の利点① 何が問題なのか、みなさんと話し合いました。 
10分	①トーク画面で、言葉が足りずもめごとになってしまうシーン ②グループトークで、ある特定の人物をグループから外そうというシーン	ICT活用の利点②	出典：国立教育政策研究所ホームページ 小学校特別活動映像資料学級活動(2) 「SNS との上手な使い方」	

- 言葉**
- ・悪口
 - ・けなす言葉
 - ・気持ちが伝わらない
 - ・かんちがい
- 人間関係**
- ・仲間はすれ
 - ・既読スルー
 - ・既読をもとめない
 - ・勝手に写真を送信された
- 時間・マナー**
- ・深夜にメッセージ
 - ・相手の都合を考えないで送信

- ・トラブルを「言葉」「人間関係」「時間・マナー」「人間関係」などに分類してトラブルの原因を理解できるようにする。
- ・SNSだけでなく、実社会における言葉の使い方や上手な伝え方についても考えるように指示をする。

3 どうしたらトラブルを避けることができるのかを話し合う。

編 P201
指導計画作成の留意事項（5）

- ・具体的な解決方法を考えられるよう、トラブルに遭った同世代の児童のインタビュー動画を提示する。

事例のポイント④

同世代の児童たちの経験を知り、自分の経験と重ねて、今後の自分のSNSとの関わりについて考えられるようにする。

- 事例1：夜に友達とのグループチャットで盛り上がりすぎて、眠れなくなってしまった。
- 事例2：夕飯を食べていたので、返信が遅れてしまい、友達と気まづくなってしまった。
- 事例3：友達にグループトークに誘われて入会したが、数週間後強制退会させられた。
- 事例4：友達とのやりとりで、誤解を招きショックを受けた。

【児童の発言内容】

- ・文字だけで決めつけない。
- ・送る前に一度確認する。
- ・直接、話して思いを伝えることも大切。
- ・相手の気持ちを考えて、言葉を選ぶ。
- ・誤解される言い方には気を付ける。
- ・マナーを守る（時間、頻度）
- ・困ったら、一人で悩まず、親や先生、友達に相談する。
- ・日頃から丁寧な言葉づかい。
- ・自分が嫌な言葉は使わない。

- ・送る側の伝え方や受け取る側の感じ方、などの短冊を用意しておく。
- ・個人目標を意思決定できるよう、児童から出された豊富な事例を黒板に掲示する共にロイロノートでも全体で共有する。

ICT活用の利点②

4 話し合ったことを参考にこれからの生活において気をつけることについて個人目標を決め、伝え合う。

- ・個人目標を決める際に、数値化したり5W1Hを意識したりできるように助言する。



※一部加工して掲載

事例のポイント②

解決方法の視点をあらかじめ短冊に記入しておき、焦点化して考えられるようにする。



- ・学習カード

◎自分の課題に合った具体的なめあてや実践方法を決めている。
【思・判・表】(学習カード、観察・発言)



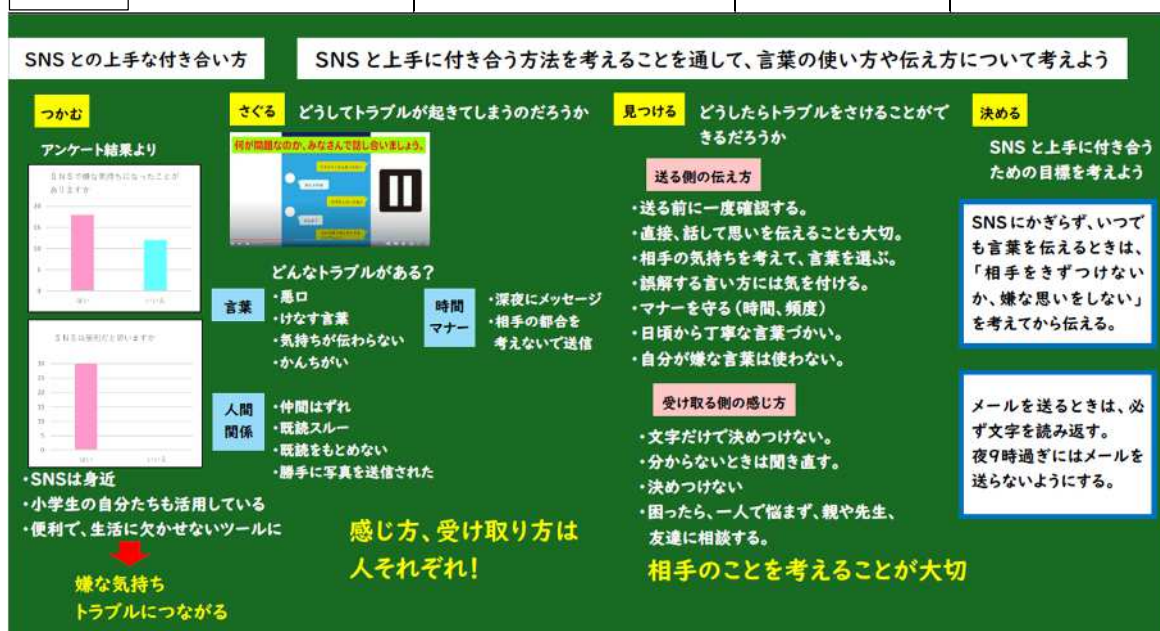
私の目標は、一度よく考えてから言葉を伝えるようにすることです。友達に送る前に必ず見直します。

板書例

・実践可能な具体的な目標になるよう、班ごとに互いの目標について話し合う時間を設ける。

事例のポイント③

意思決定の場面において、実現性の低いめあてや、容易に解決できるめあてをを考えてしまうこともあるため、生活班ごとに各自の考えを伝え合い、アドバイスし合う。友達に教えることで、自分のめあても振り返るこ



「つかむ」「さぐる」「見つける」「決める」の流れを表示する。思考の整理ができ、理解を深める板書にすることが大切である。

7 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】（評価方法）
・全体で取組状況を発表し合い、称賛したり、励まし合ったりする。 ・達成できたことやできなかったことなどを振り返り、反省を生かして継続的に取り組む。	・朝の会や帰りの会などを利用して、生活班で取組を確認し合う場を設け、お互いの頑張りを認め励まし合いながら、<u>実践の継続化</u>を図る。	◎具体的なめあてや実践方法に、進んで取り組もうとしている。 【態】（学習カード・観察）

SNSを起因とするトラブルは中学生になってからも起こることも考えられることから、実践終了後も朝の会、帰りの会での話題にする。

「SNS との上手な付き合い方
～SNS を通して考える言葉の使い方や伝え方を考えよう～」

6年2組 名前()

☆映像資料を見て考えたこと

- ・直接話しているわけではないので、伝えたいことが正しく伝わっていない。
- ・いじめにつながりそう。

⇒なぜ、SNS ではトラブルが起こりやすいのだろうか。

- ・顔が見えないから、気持ちが大きくなって言いきてしまう。
- ・文字だけだから、言外角を招いてしまう。
- ・相手の気持ちを考えていない。

思考の流れが分かるように、学習カードに映像資料を見て考えたこと等も書き込めるようにする。そうすることで、意思決定の際、より自分のめあてを考えやすくなる。

⇒どのようにしたら、トラブルをさけることができるのだろうか。

- ・送信する前に、文章を読み返すようにする。
- ・文字だけではなく、絵文字を使う。

実現可能なめあてにするために、5W1Hを意識して書くとよいことを伝える。

When いつ、Where どこで
Who だれが、What 何を
Why なぜ、How どのように

☆これからの目標(5W1H)

SNSにかぎらず、いつでも言葉を伝えるときは、「この言葉は相手が傷つかないか、いやな思いをしないか」を考えてから優しい言葉を伝えるようにする。

☆1週間の取組について(◎よくできた ○できた △あまりできなかった)

6/27(木)	6/28(金)	6/29(土)	6/30(日)	7/1(月)	7/2(火)	7/3(水)
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

☆1週間の取組を振り返って

今までは、あまり深く考えずに話していましたが、意識して話すようになったことで、友達と仲良く過ごせたように思いました。以前は、少しのことでイライラしていましたが、呼吸おいてから話すようにすると、心にゆとりができて、人に優しく笑顔で生活することができました。

【先生から】いつも以上に周囲に優しく接することができました。考える、そして大切なこととして、優しい言葉をクラスを思いやりで伝える。

児童の自己評価については、教師が児童の取組を励ましたり、価値付けたりするコメントを入れることも考えられる。

9 指導上の留意点

- 本実践は学級活動「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 イ よりよい人間関係の形成」に係る内容であり、学校で作成する年間指導計画に基づき、意図的、計画的に実践している。各学年の発達の段階に応じて系統的に指導できるよう年間計画の見直しを年度末に行っている。
- 授業に向けた児童の問題意識を高めるために、事前に題材を提示したり、アンケートを実施したりすることで、意識を高めることが期待できる。
- アンケートの集約、提示について、高学年においては、計画委員の児童等が作成することも考えられる。計画委員の児童が作成等に関わることで、学年・学級の現状を把握することでき、前向きに授業に臨もうとする態度につながる。
- アンケート結果を表示する際には、個人が特定されないことがないよう取扱いに十分に注意した。
- アンケートの結果の活用については、限られた時間の中で実態を確認できるように、共通の課題と思われる質問に絞って取り上げた。
- 学習カードへのコメントについては、児童の実態や取組状況を踏まえて、必要に応じて記入する。取組の経過については、実施期間中の朝の会等で、適宜振り返る時間を設け、意欲の継続化を図るようにした。
- SNS等を利用したことのない児童においても、今後、使用する機会があることを伝えるとともに、日常生活でのコミュニケーションと同様に考えるよう伝えた。

※ SNS の利用に関する指導においては、以下の資料が参考になる。

国立教育政策研究所「小学校特別活動映像資料」小学校特別活動映像資料 学級活動編
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku/sho_tokkatsueizo/index.html